



自然と感性



理事 高橋 正光

樹々の緑が一段と深みを増す季節の中、私が生まれ育ち今でも居を構え三多摩の中核都市と言われるまでに発展した立川市（私の地域は旧砂川町＝立川基地拡張反対で農民が決起した砂川闘争で有名。その後、昭和38年に立川市と合併）にも、まだまだ沢山の自然が残されています。その一つに、我が園の道を挟んで向い側を流れる玉川上水（江戸市中の飲料水として承応3年6月、玉川庄右衛門、清右衛門兄弟により、羽村取水堰から四谷大木戸に至る43キロが完成）があります。子どもの頃、泳いだり魚獲りをして遊んだその川は、言わば私の心のふるさとであり、今でも自然の宝庫として豊かな潤いを漂わせ遊歩道を散策する人々の心と体を癒しています。

樹齢数百年もあろうかというケヤキやクヌギ、ナラなどの大木が上水の清流をさながら緑のカーテンでやさしく包み込むように繁茂し、流行りの森林浴に浸ることもできます。耳を傾けると何処からともなく小鳥のさえずる声が聴こえ、まるで日々の喧騒から解き放たれて爽やかな開放感と同時にゆったりとした時間の流れを体感できます。春には山桜やコブシの花が所々で咲き誇り、秋には山栗やドングリの実を無邪気に捨てる子ども達の姿もあります。当然、我が園の子ども達も四季の移ろいを楽しんでいます。

先日も暇を見て、上水沿いの道を歩いてみました。園より下流へ500メートル行った所で足を止め川の流れに目をやると、40cmもあろうかという大きな鯉が20匹程、群れをなし悠々と泳いでいます。又、通称『ドウドウ』付近では数羽の鴨が静寂の中、水面で逆立ちし川底の水藻をしきりについで姿がなんとも滑稽で、一頻りの安らぎを覚え自然界の命の営みを感じとることができます。

私も忙しさにかまけて自然を省みない日々が続いていますが、時として身も心も自然に同化させ、英気を養い心身のリフレッシュを図ることがとても大切なことだと思います。アメリカの発明家ベルは「時には踏み慣れた道から離れ森にさまよい入りなさい、何か新しいものを見いだすだろう」と唱えています。子どもも自然の中で遊びを通した様々な体験が豊かな感性を育むもので、自然は子ども達にたくさんの素材を提供してくれる心の教科書です。

近年、若者による憂慮に耐えない陰惨な凶悪事件が日本に限らず多発していますが、子ども時代に感性を養い育てる自然とのふれあいや体験の少なさが一つの要因かと思っています。貴重な自然が玉川上水に限らず東京にも沢山残されています。今こそ私たち大人が子ども達と自然の中で遊び体験し感動することが、未来を担うに相応しい人間性豊かな子ども達の育成に欠かせません。

過ぎ去った激動の20世紀を『物質文明の時代』とするならば、21世紀は『夢とロマンをすべての人が語ることのできる心の時代』としたいものです。

ところで昨今、政治は身近となりメディアでもその動きを連日伝えています。昨年末の解散総選挙に続き、この6月は都議会議員選挙、7月には参議院選挙が執行されます。子どもに携わる関係上保育界には政治に関わることに違和感を抱く傾向が少なからずあります。果たしてそれで良いのでしょうか。保育に携わる者といえども政治に無関心でいていい筈がありません。例の懸念を抱いた子ども子育て新システム「総合こども園制度」も最後は国会での政治決着に委ねられました。その結果、幸いにも撤回され、既存の「認定こども園制度の拡充」で到着、保育界が大きく揺らいだ制度改革は頓挫し、正に政治がその是非を決定したのであります。僅か一年前のことであり改めて政治の重要性を認識することとなりました。国民主権の政治に対しても我々有権者に与えられた大切な権利を放棄することなく行使したいものです。明るい未来を担う子ども達のためにも。